

# てん新聞

10.4.No155  
 発行所 岡山 5292  
 責任 0883

雨とよみ降りました。  
 木の芽あここの雨と今年ほど  
 降れば、飲料水は安心なんです  
 すが、畑仕事は進みません。  
 そんな中、マワヤヒエなど雑穀  
 と言われれる穀物に関係することか

早くも桜が咲いたとおもえば雪が降り  
 氷点下にひり冬に逆もひり。  
 そんな気温の変化の激しい三月。  
 今年は播の花がいつ咲いてくれるかが目  
 につく。マブツバキごと、花はどこかひんやり  
 ことはなく、車が走るといつと咲いてくるのが確  
 認出来る程の花散。

タムシバひんが、早く咲きすすまで、雪にやうれ  
 茶色っぽくはつて、まっ白い花が見られなく  
 はないまま。不思議というか変な天候  
 状況です。桜も町のなかう咲きはひめ  
 例年ですが、今年は何となく  
 かむしろ早い竹に咲きは  
 ひめこしまいました。

# 足踏む春

重なり、不思議な縁の結びこのを感心しました。  
 その一つは、徳島県東部東祖谷地区の雑穀を調  
 査研究している大阪のMさんが訪れお話をす様  
 会があり、新ためて地域性ということを強く感心  
 する、ことが出来ました。  
 昨年、板の道小中学校が栽培し、おだん  
 ごとく食べさせるところだったマツマタ。  
 シコクビエというそうご、昔々々の  
 農家でも栽培し食べられていた  
 という穀物です。



ほとんど絶滅に近くな  
 っている種であり、東祖  
 谷でも栽培している人は  
 数人だったようです。  
 そこで、二つ目は、徳島県  
 の事業で、地域おこしの  
 施策を話しあうことが  
 どう何年か前にあり、その  
 中で雑穀を増やそう  
 との声があがり、マワヤヒ  
 のある地域にだけやろう  
 という方向で、東祖谷は  
 リタイヤ、その後、この事  
 業は「河津雑穀街道」  
 のブランド名で拡大され  
 各所で弁当等がけられ



るようになりました。  
 その時、都内から参加していらした、東祖谷  
 に足を運んでいて、T.E.L.を頂き再生することが  
 出来ました。  
 共に事業をするには出来なかつたにとかかか  
 らず、一参加者にはなかつた私の事を憶えて、  
 だいたいこの嬉しい限りでした。  
 近年、五穀米とか六穀米とか宣伝し、雑  
 穀といわれ出した穀物が見直されています。  
 今ほど地域に注目し、熱心に足を運んでい  
 る人がいるというのに、この地域に住み暮らして  
 いる私達が無関心でいいのだろうか。  
 たとえば、東祖谷の若命地区において、ソバ畑や  
 ヒエ、アワ、そしてマツマタを多く栽培する畑を増  
 やし、東祖谷ブランドとして販売するとか、東祖  
 谷内の倉庫のメジャーに雑穀を利用した一  
 品を入れるなどすれば、ひかまか面白いとはお  
 います。  
 そこで、今さら組みは、自分の所だけよければい  
 りはありません。様々な人が参加し、それをい  
 が何らかの形で利益を得られなければ地域の  
 再生にはならぬといふおとします。  
 お金をかけて地域再生が出来ると、どう再生  
 していると言えま。それだけのお金を使っ  
 ているのだから、間違ひなく大金を